



皆で**情報共有**しようシリーズ！  
**YoutubeLive第17回**



21:00

）

楽しい話なので  
長くなるかも

【最新のボーダー考察ライブ】  
『**受験率**』が分かったので、詳しく解析  
してきました！  
面接や記述・論文の評価に怯えている方  
へ。『**自分は最終合格できるのか**』とい  
う不安が絶対になくなると思います！  
それくらい根拠を持って紹介できるので  
ぜひチェックしてみてください～！



## 今回紹介する試験区分

- **国家一般職**
- **国税専門官**
- **労働基準監督官**

**コメント欄に〇分〇秒から国家一般職等と  
目次を作っておきますね！**

# 【『受験率』の調査結果発表】

ボーダー・倍率への影響や、いかに...

皆さんの協力のおかげで、大体の『**受験率**』を把握することができました！こんなにたくさんの方がデータが集められるとは思っていませんでした。本当にありがとうございました!!!!

今回その**集計データ**を**発表**したいと思います！

分析できたのは、**国家一般職**と**国税専門官**、**労働基準監督官**の3つです！



## 今回のライブ配信で紹介

- 「受験率」がわかったなので、**最新のボードー解説**を行います！
- 自分は「面接C」で受かるのか？そういった**今後のビジョン**をデータに基づいて詳しく紹介します！
- 今年はおもしろい結果に...!!!

# 【受験率の概算値まとめ】

国家一般職(行)

0.740

国家一般職(技)

0.649

国税専門官

0.696

労働基準監督官

0.711



## 今回の受験率について

- 受験生が主観的に〇人中◆人受けているよ〜と判断した値の統計データ
- 同じ会場からの報告があるため、二重計上している場合もある
- 5〜5.5割くらい等のときは中間値を使用(5.25割)

# 【受験率のデータ量】

## 国家一般職(行)

8557人中  
→6329人受験

## 国家一般職(技)

291人中  
→189人受験

## 国税専門官

4505人中  
→3135人受験

## 労働基準監督官

456人中  
→324人受験

# 【地区ごとの受験率まとめ】

北海道

0.715

東北

0.596

東海・北陸

0.690

関東甲信越

0.788

近畿

0.781

中国

0.709

四国

0.696

九州

0.760

沖縄

0.821



## 今回の解析条件(国家一般職)

- 平均点を(21、22)と仮定
  - 標準偏差を(4.8、7.0)と仮定
- この条件を今年の基準と、自分が勝手に判断しましたので、ココを基準に今年のボーダーを考察します。

# 【1次ボーダー予想値】

地区	申込者数	受験者※仮	1次合格者	筆記倍率※	1次合格率	正規分布表	σ倍率	予測点	補正込み予想
北海道	1035	730	535	1.36	0.733	-0.233	-0.62	271	262
東北	1652	1050	645	1.63	0.614	-0.114	-0.29	304	289
関東	9382	6200	2310	2.68	0.373	0.127	0.32	365	370
東海	2761	2000	939	2.13	0.470	0.031	0.08	341	361
近畿	3265	2200	948	2.32	0.431	0.069	0.17	350	363
中国	1500	1050	716	1.47	0.682	-0.182	-0.47	286	290
四国	1020	680	430	1.58	0.632	-0.132	-0.34	299	288
九州	2821	1950	933	2.09	0.478	0.022	0.01	333	320
沖縄	744	620	209	2.97	0.337	0.163	0.42	375	325

※(21,22)を平均と仮定した時の解析値

※地域ごとの受験生のレベル・やる気が違うため、誤差がでる(これは補正込み)

# 【地区ごとの受験生のレベル・やる気まとめ】

北海道

★2

東北

★1.5

東海・北陸

★5

関東甲信越

★3.5

近畿

★4.5

中国

★3

四国

★1.5

九州

★1.5

沖縄

★0.5

# [(21,22)を基準とした時のボーダー点]

北海道

260

東北

290

東海・北陸

360

関東甲信越

370

近畿

365

中国

285

四国

285

九州

320

沖縄

330

# 【1次合格者数は**確定値**】

地区	申込者数	受験者※仮	1次合格者	筆記倍率※	1次合格率	正規分布表	σ倍率	予測点	補正込み予想
北海道	1035	730	535	1.36	0.733	-0.233	-0.62	271	262
東北	1652	1050	645	1.63	0.614	-0.114	-0.29	304	289
関東	9382	6200	2310	2.68	0.373	0.127	0.32	365	370
東海	2761	2000	939	2.13	0.470	0.031	0.08	341	361
近畿	3265	2200	948	2.32	0.431	0.069	0.17	350	363
中国	1500	1050	716	1.47	0.682	-0.182	-0.47	286	290
四国	1020	680	430	1.58	0.632	-0.132	-0.34	299	288
九州	2821	1950	933	2.09	0.478	0.022	0.01	333	320
沖縄	744	620	209	2.97	0.337	0.163	0.42	375	325

※(21,22)を平均と仮定した時の解析値

※今回の条件下での受験者数も推測可能

# 【地区ごとの受験率まとめ】

北海道

0.715

東北

0.596

東海・北陸

0.690

関東甲信越

0.788

近畿

0.781

中国

0.709

四国

0.696

九州

0.760

沖縄

0.821

# 【2次の受験者数は...（予想）】

地区	1次合格者	受験率	2次受験者	合格者予想	差
北海道	535	0.715	382	380	2
東北	645	0.596	385	460	-75
関東	2310	0.788	1820	1650	170
東海	939	0.690	648	650	-2
近畿	948	0.781	740	650	90
中国	716	0.709	508	550	-42
四国	430	0.696	299	300	-1
九州	933	0.760	709	680	29
沖縄	209	0.821	172	170	2

※以前ライブ配信で聞いた皆さんの意見を参考合格者を予想しました

# 【受験者一合格者（予想）】

地区	1次合格者	受験率	2次受験者	合格者予想	差
北海道	535	0.715	382	380	2
東北	645	0.596	385	460	-75
関東	2310	0.788	1820	1650	170
東海	939	0.690	648	650	-2
近畿	948	0.781	740	650	90
中国	716	0.709	508	550	-42
四国	430	0.696	299	300	-1
九州	933	0.760	709	680	29
沖縄	209	0.821	172	170	2

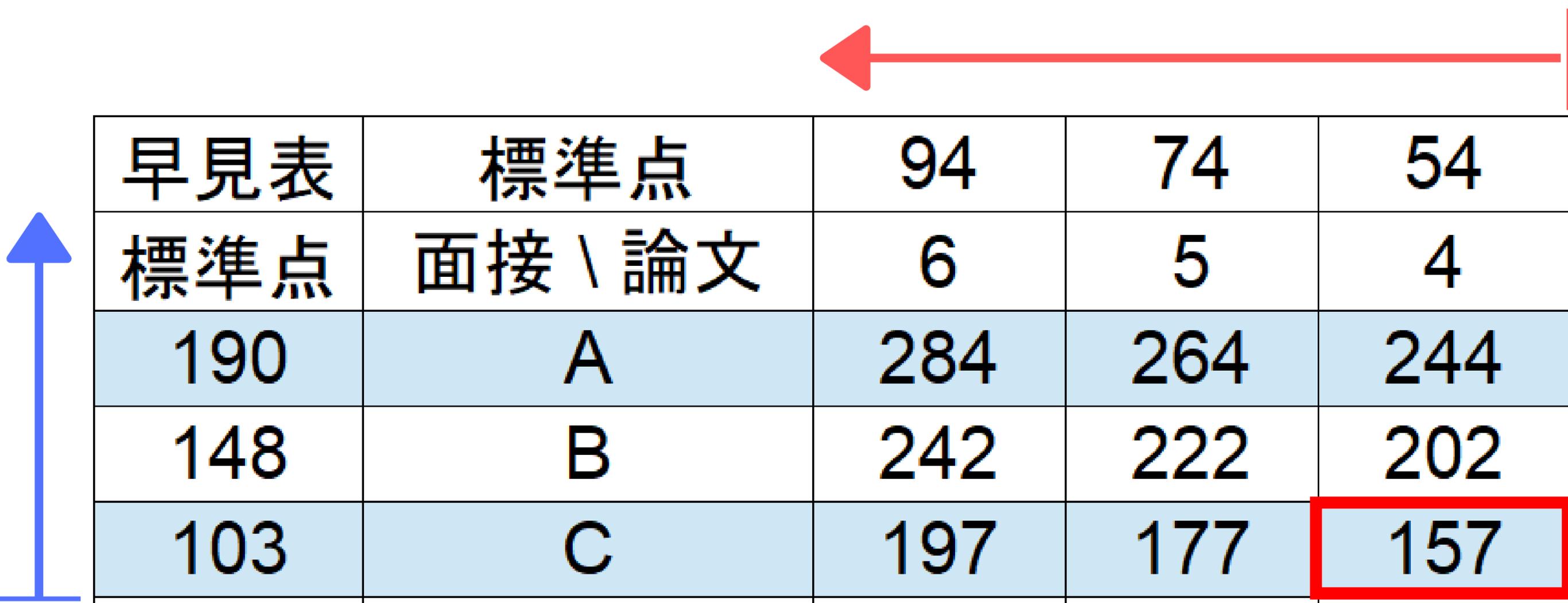
供給 需要

# 【関東の実質倍率はどれくらいか...】

【関東甲信越】国家一般職(大卒)							
年度	1次合格者	1次合格者	2次受験者	最終合格者	2次倍率	実質	合格点-ギリギリ
R2	2310	0.788	1820	1650	1.40	1.10	140
R1	2565	0.85	2180	1792	1.43	1.22	160
H30	2493		2119	1696	1.47	1.25	168
H29	2608		2217	1724	1.51	1.29	170
H28	2723		2315	1805	1.51	1.28	178
H27	2969		2524	1985	1.50	1.27	178
H26	2459		2090	1702	1.44	1.23	139
H25	2256		1918	1474	1.53	1.30	158
H24	1340		1139	873	1.53	1.30	148

落ちる人が170名くらいしかいなさそう

# 【面接&論文の標準点まとめ】



早見表	標準点	94	74	54	34
標準点	面接 \ 論文	6	5	4	3
190	A	284	264	244	224
148	B	242	222	202	182
103	C	197	177	157	137
57	D	151	131	111	91

# どの層が落ちるのか

## 関東甲信越

1次合格→2310名

受験生約1820名(予想)

合格者約1650名(予想)

★実質倍率が超低下...

→ボーダー付近でもC評価

以上で合格だと思えます！

## (ボーダー付近)

(17,29)=371

(18,28)=376

(20,27)=373

(21,26)=371

(23,25)=375

(24,24)=372

(26,23)=376

(27,22)=374

(28,21)=371

偏差値50  
=333点

偏差値53~54  
=370点

# 受験生の層

## 関東甲信越

1次合格→2310名

370~400点の間(補正込)

約725人×0.788→**571人**

571人は理論値なので、**実際はもう少し少いそう。**

$600 \times 0.16(D) = 96$ 名

## (ボーダー付近)

(17,29)=371

(18,28)=376

(20,27)=373

(21,26)=371

(23,25)=375

(24,24)=372

(26,23)=376

(27,22)=374

(28,21)=371

偏差値50  
=333点

53.6  
=370点

56.7  
=400点



## ポイント

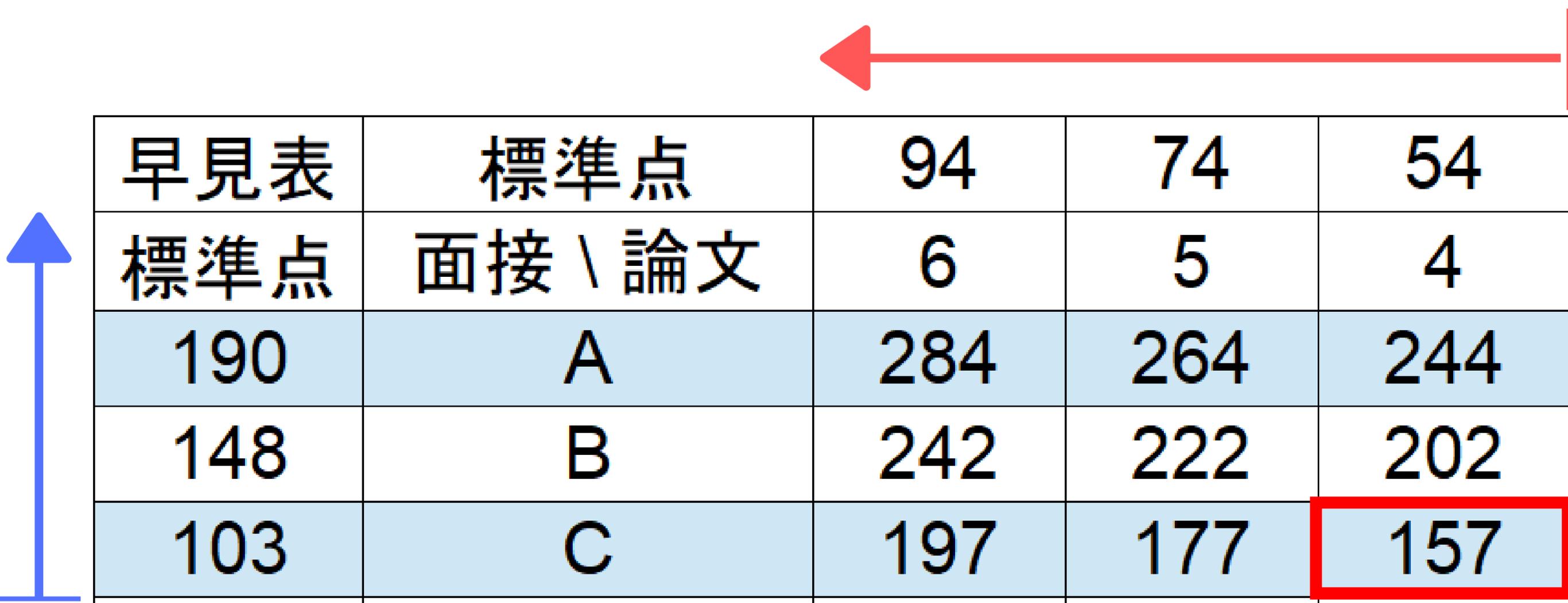
- 受験生のレベル(平均点等)は例年と差がない
- 単純に2次倍率だけがさがる
- →ボーダーが下がる
- ボーダー付近+面接Dがアウト
- 論文足切りアウト
- 面接足切りアウト

# 【近畿の実質倍率はどれくらいか...】

【近畿】国家一般職(大卒)							
年度	1次合格者	1次合格者	2次受験者	最終合格者	2次倍率	実質	合格点-ギリギリ
R2	948	0.781	740	650	1.46	1.14	150
R1	873	0.9	786	641	1.36	1.23	160
H30	993		894	749	1.33	1.19	168
H29	965		869	664	1.45	1.31	170
H28	1008		907	709	1.42	1.28	178
H27	913		822	632	1.44	1.30	178
H26	771		694	544	1.42	1.28	139
H25	935		842	665	1.41	1.27	158
H24	461		415	312	1.48	1.33	148

落ちる人が90名くらいしかいなさそう

# 【面接&論文の標準点まとめ】



早見表	標準点	94	74	54	34
標準点	面接 \ 論文	6	5	4	3
190	A	284	264	244	224
148	B	242	222	202	182
103	C	197	177	157	137
57	D	151	131	111	91

# 【次は最終合格ボーダーの話】

地区	1次合格者	受験率	2次受験者	合格者予想	差
北海道	535	0.715	382	380	2
東北	645	0.596	385	460	-75
関東	2310	0.788	1820	1650	170
東海	939	0.690	648	650	-2
近畿	948	0.781	740	650	90
中国	716	0.709	508	550	-42
四国	430	0.696	299	300	-1
九州	933	0.760	709	680	29
沖縄	209	0.821	172	170	2

※以前ライブ配信で聞いた皆さんの意見を  
参考に合格者を予想しました

# 【2人の受験生を例として紹介】

**ブタ君**



試験→国家一般職・関東  
素点→教養20、専門27  
標準点→373点

**ネコ君**



試験→国家一般職・近畿  
素点→教養24、専門28  
標準点→414点



## 一旦自分の標準点を算出しよう

- **平均点**を予想してください
- **教養1問につき±7点**
- **専門1問につき±10点(今年は予想9.5)**
- →その合計値を333点に足して下さい

例：(21,22)予想で自分が(24,28)なら

**教養+3問、専門+6問**

$$\rightarrow 7 \times 3 + 10 \times 6 = 81$$

$$\rightarrow 333 + 81 = 414 \text{点}$$

# [(21,22)を基準とした時のボーダー一点]

北海道

260

東北

290

東海・北陸

360

関東甲信越

370

近畿

365

中国

285

四国

285

九州

320

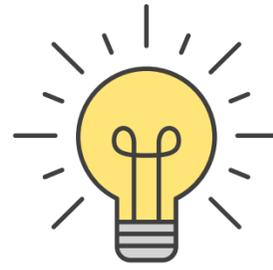
沖縄

330

# 【需要と供給のミスマッチ】

地区	1次合格者	受験率	2次受験者	合格者予想	差
北海道	535	0.715	382	380	2
東北	645	0.596	385	460	-75
関東	2310	0.788	1820	1650	170
東海	939	0.690	648	650	-2
近畿	948	0.781	740	650	90
中国	716	0.709	508	550	-42
四国	430	0.696	299	300	-1
九州	933	0.760	709	680	29
沖縄	209	0.821	172	170	2

供給 需要



## 需要と供給の観点は大事

- 究極な話、今年は合格者少なくていいよ～とはならない
- →採用側も働いてくれる人を確保しなきゃならない！
- 最終合格者数が一定数以下になることとはない

# 【今年は垂れ流し状態になりそう...】

北海道

140※

東北

110

東海・北陸

100

関東甲信越

140

近畿

150

中国

125※

四国

125※

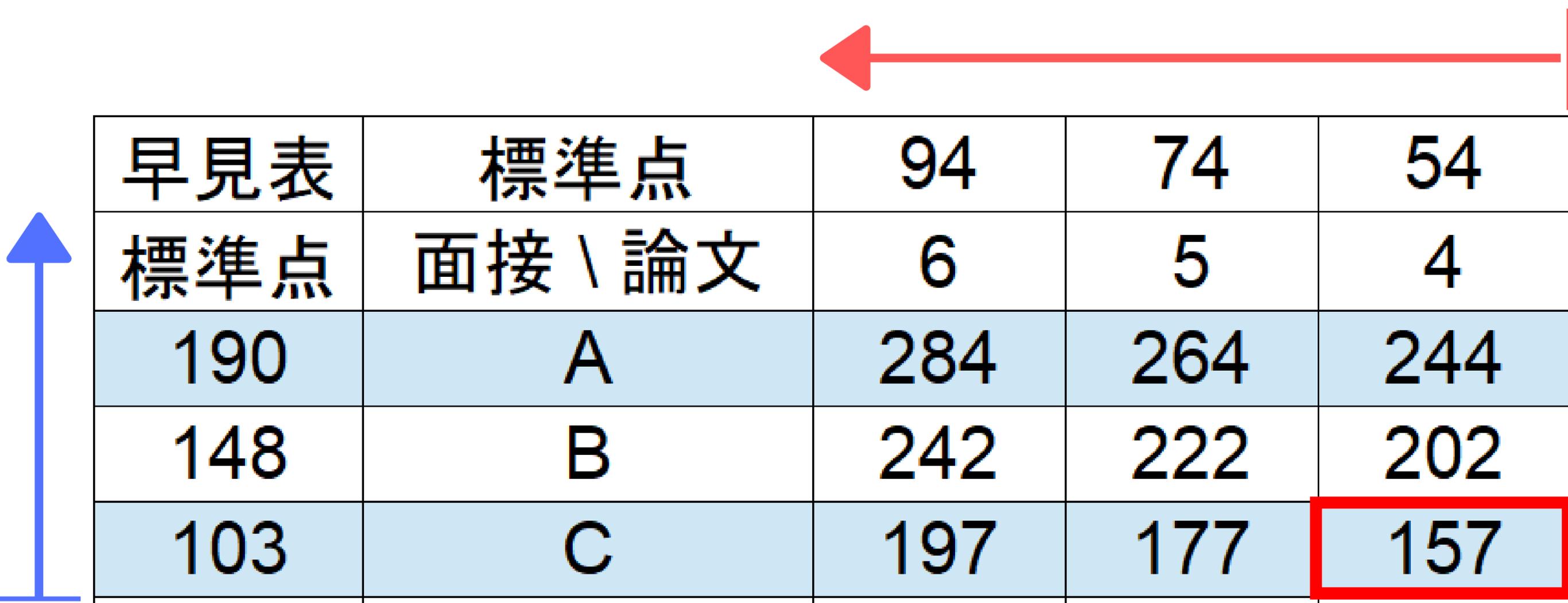
九州

140

沖縄

100

# 【面接&論文の標準点まとめ】



早見表	標準点	94	74	54	34
標準点	面接 \ 論文	6	5	4	3
190	A	284	264	244	224
148	B	242	222	202	182
103	C	197	177	157	137
57	D	151	131	111	91

# 【21,22と仮定した時の最終合格の目安】

最終合格点	北海道	東北	関東	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
R2(予想)	400	400	510	460	515	410	410	460	430
R1	485	488	537	532	566	514	539	514	412
H30	512	497	557	528	561	459	520	524	469
H29	467	510	555	553	574	522	541	545	519
H28	497	511	567	533	572	525	531	533	513
H27	497	518	560	541	585	571	557	571	551
H26	510	469	531	532	573	522	530	567	524
H25	509	454	555	527	552	533	546	545	525

# 【21,22と仮定した時の最終合格の目安】

北海道

400

東北

400

東海・北陸

460

関東甲信越

510

近畿

515

中国

410

四国

410

九州

460

沖縄

430

# 【受験者—合格者（予想）】

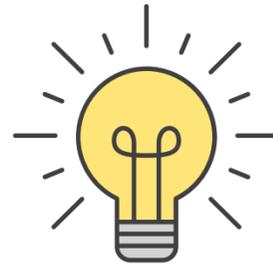
地区	1次合格者	受験率	2次受験者	合格者予想	差
北海道	535	0.715	382	380	2
東北	645	0.596	385	460	-75
関東	2310	0.788	1820	1650	170
東海	939	0.690	648	650	-2
近畿	948	0.781	740	650	90
中国	716	0.709	508	550	-42
四国	430	0.696	299	300	-1
九州	933	0.760	709	680	29
沖縄	209	0.821	172	170	2

供給 需要



## ボーダー考察の要点まとめ

- 昨年等に比べると、最終合格者数は減少する地区が多い(見かけ倍率UP)
- 減少する理由は難易度が上がったわけではなく、**受験者数が減りすぎた**から
- 全体的に**垂れ流し状態**になる



## 今年の傾向!!技術を例にします

- 国家一般職の技術系の区分がなぜ筆記も面接も**毎年垂れ流し状態**になっているのか(一部の区分以外)を考えてみてほしい!
- **需要**(働いてほしい)と**供給**(受験生)のバランスが崩壊しているから

# 【記述と面接で必要な点】

差引	電気電子情報	機械	土木	建築	物理	化学	農学	農業農村工学	林学
R2									
R1	97	142	79	185	132	154	182	142	142
H30	163	102	117	190	168	152	177	205	179
H29	143	149	163	282	121	176	171	211	214
H28	131	141	200	209	115	192	206	265	271
H27	101	79	154	204	140	211	180	296	240
H26	130	145	142	215	163	171	188	201	183
H25	117	111	78	216	160	180	165	154	204
平均	126.0	124.1	133.3	214.4	142.7	176.6	181.3	210.6	204.7

早見表	標準点	82	69	57	44	32	19
標準点	面接 \ 記述	8	7	6	5	4	3
189	A	271	258	246	233	221	208
147	B	229	216	204	191	179	166
103	C	185	172	160	147	135	122
59	D	141	128	116	103	91	78

# 【技術の供給(受験生)不足】

国家一般職(技)

0.649

国家一般職(技)

291人中  
→ 189人受験

# 【土木のデータをピックアップ】

【土木】国家一般職(大卒)							
年度	1次合格者	受験率	2次受験者	最終合格者	2次倍率	実質	合格点-ギリギリ
R2	624	0.649	405	400	1.56	1.01	78
R1	881	0.715	630	622	1.42	1.01	79
H30	1075			750	1.43		117
H29	1105			758	1.46		163
H28	1137			766	1.48		200
H27	1254			892	1.41		154
H26	1018			691	1.47		142
H25	949	0.685	650	639	1.49	1.02	78
H24	302			186	1.62	0.00	90

↑ 人手不足過ぎる土木...

緑の枠のおかげで『受験率』がわかる

# 【土木のデータをピックアップ】

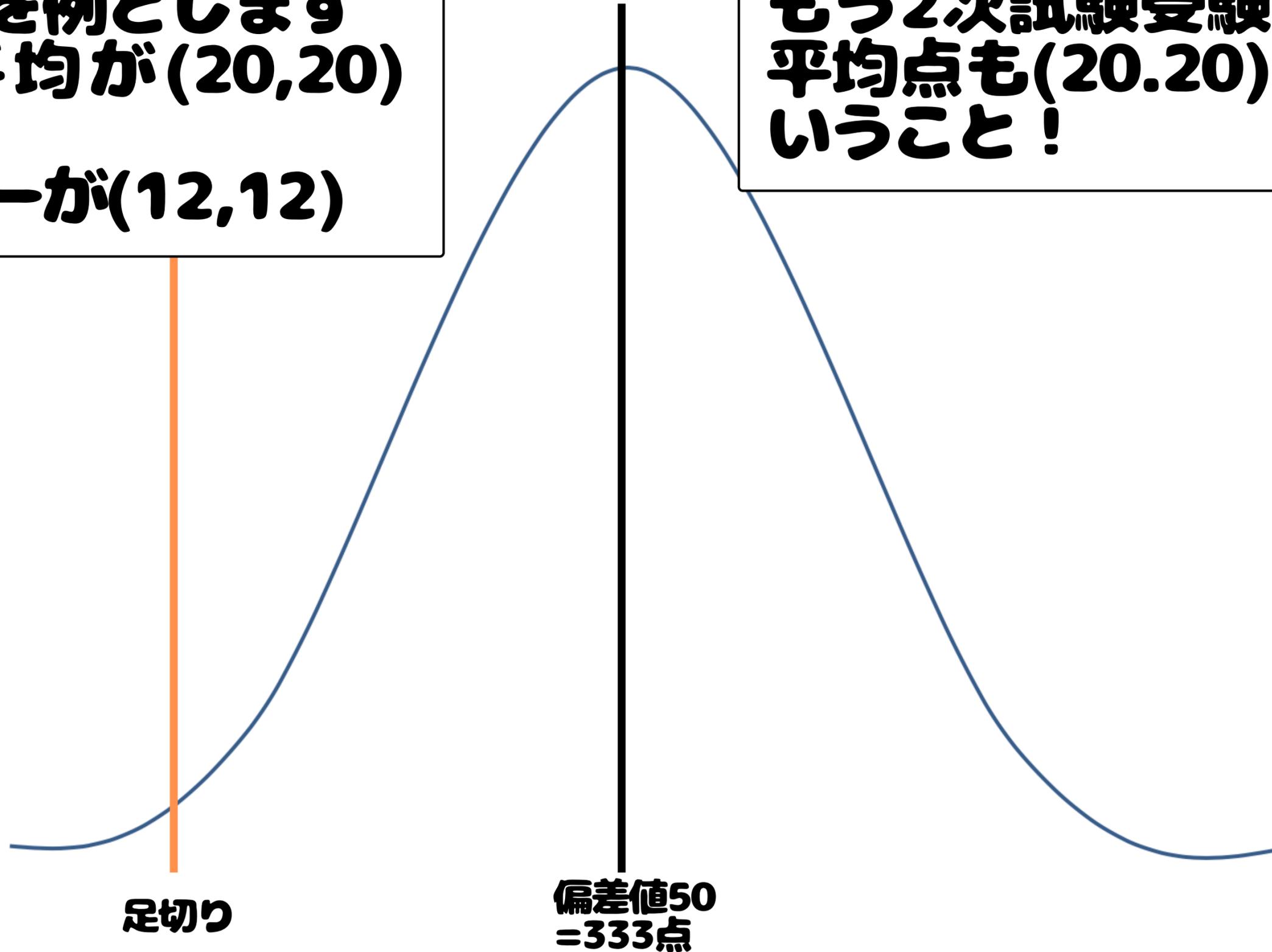
【土木】国家一般職(大卒)							
年度	1次合格者	受験率	2次受験者	最終合格者	2次倍率	実質	合格点-ギリギリ
R2	624	0.649	405	400	1.56	1.01	78
R1	881	0.715	630	622	1.42	1.01	79
H30	1075			750	1.43		117
H29	1105	0.75	829	758	1.46	1.09	163
H28	1137			766	1.48		200
H27	1254			892	1.41		154
H26	1018			691	1.47		142
H25	949	0.685	650	639	1.49	1.02	78
H24	302			186	1.62	0.00	90

↑ 人手不足過ぎる土木...

ちょっと高めに見ても12人に11人...

【土木】を例とします  
H20は平均が(20,20)  
くらい  
→ボーダーが(12,12)

もう2次試験受験生自体の  
平均点も(20.20)くらいと  
いうこと！



足切り

偏差値50  
=333点

**【土木】を例とします**  
**H20は平均が(20,20)**  
**くらい**  
**→ボーダーが(12,12)**

**もう2次試験受験生自体の**  
**平均点も(20.20)くらいと**  
**いうこと！**

**ボーダーが低すぎるので、**  
**163といっても垂れ流し状**  
**態に変わりはない**

**見かけ上の倍率だけは上昇**  
**する**  
**→今年は難しかったねとな**  
**るけど、実際はそうでは**  
**ない**

足切り

偏差値50  
=333点

# 【技術の最終合格点】

最終合格点	電気電子情報	機械	土木	建築	物理	化学	農学	農業農村工学	林学
R2									
R1	309	348	296	362	355	443	488	331	352
H30	348	296	326	348	401	487	508	376	456
H29	369	364	356	427	350	530	536	500	519
H28	333	335	410	367	348	561	563	445	478
H27	260	255	337	345	310	568	531	479	496
H26	307	326	320	372	358	546	534	386	442
H25	310	280	263	366	352	565	519	341	526
平均	319.4	314.9	329.7	369.6	353.4	528.6	525.6	408.3	467.0

**イメージ      300                  300                  300                  330                  330                  420                  450                  330                  330**

**※区分ごとの平均点の標準偏差次第で合格点等も変わる**

**すべての区分で申込者、受験者数減  
→合格者は減るがボーダーは下がる**

# 【今年は垂れ流し状態になりそう...】

北海道

140※

東北

110

東海・北陸

100

関東甲信越

140

近畿

150

中国

125※

四国

125※

九州

140

沖縄

100



## 計算方法まとめ(国家一般職)

• 教養と専門平均点予想→今年(◇,◇)

→ 『**平均点 = 333点**』 (固定)

(1問の価値(だいたい))

• 教養1問→標準点約7点

• 適性1問→標準点約10点

→ 333点 ± 7× ● ± 10× ● = 標準点

●は(自分の素点) - (平均点)

# 【自分は平均より何点多い？少ない？】

## 計算しよう

★1問7点の教養が3問多く  
取れてる

$$\rightarrow 7 \times 3 = 21 \text{点}$$

★1問10点の適性が6問多  
く取れてる

$$\rightarrow 10 \times 6 = 60 \text{点}$$

※小数点以下切り捨て

$$333(\text{平均}) + 21 + 60 = 414 \text{点}$$

ネコ君



俺は(23,70)だから  
教養が平均+3問  
専門が平均+6問多いぜ



## 一旦質疑応答タイム

- ココまでの内容でわからないこと
  - もう一度説明してほしいところ等
- 何かあれば今のうちに気軽に聞いて下さい～！
- 何もなければ国税のボーダーの話に移ります！

LINEでも気軽に聞いてください(^^)

今日質問に答えられなかった方ごめんなさい!!



1:35 / 3:40

